



第3学年通信

VOL.32
2018.9.27(木)

3 学年もいよいよ後半に入りました。2 学期最初の校外模試であるベネッセ・駿台マーク模試が先日行われましたが、2 学期は各種テストが連続して行われます。以下に今後のテスト予定を示したので、あらためて確認しておいてください。

1 0 / 6 (土)・7 (日) ベネッセ・駿台記述模試
1 0 / 1 6 (火)～1 8 (木) 中間試験
1 0 / 2 0 (土) 全統記述模試
1 0 / 2 7 (土)・2 8 (日) 全統マーク模試
1 1 / 3 (土)・4 (日) 進研マーク模試
1 1 / 1 3 (火) 校内模試
1 1 / 2 7 (火)～3 0 (金) 期末試験
1 2 / 2 (日) 全統センタープレテスト (会場：足利大)
冬休みセンター直前センタープレテスト (日程は今後決定)

※全統センタープレテスト (会場：足利大) は、当初の予定では 1 1 / 2 5 (日) でしたが、1 2 / 2 (日) に変更となりました。

今後は校外模試の回数が増え、そのたびに志望校判定が出てきます。それらのデータをもとに受験校群と受験スケジュールを考えていくことになりますが、ここで忘れてはならないのが、**模試の活用** です。受験本番までの時間が次第に少なくなってくると、模試を見直す時間を惜しむあまり、結果を見るだけになってしまいがちです。しかし、模試を受ける最大の意義は、**受験勉強の重要な教材** として生かすことにあります。『蛍雪時代 1 0 月号』に、この点についての記事がありました。右側に載せましたので参考にしてください。

校外模試についても 1 点。ランキング表の基になっている数値は B 判定偏差値ですが、この数値は、過去の合格者の模試偏差値の「平均値」や最近の希望状況等をもとに各業者が割り出している数字です。しかし、入試本番では必ずしも合格者の平均点を取る必要はありません。**合格者の最低点をクリアすれば合格** です。合格者の最高点・平均点・最低点のいずれであっても、合格に変わりはありません。たとえ判定が芳しくなくても最後まで諦めず、「受験本番までに合格最低点に達すれば合格できる」と考えて努力を続けることが肝要です (ただし、この考え方はあくまでも「挑戦校」についてであり、いわゆる「安全校」を決める時に使うべきでないことは言うまでもありません)。また、判定が良くても慢心は禁物です。穴になっている部分は必ずあります。模試でそれをチェックし、早めに手を打つよう心がけましょう。

「弱い者ほど早く結論を出したがる」

これは勝負の世界の金言なのだそう。強い人は自分からなかなか結論を出さない。形勢が不利でも「まだ、まだ」と思えるのだ。だが、弱い者はよいにつけ悪いにつけ、結論を早く出してしまふ。剣の果たし合いでにらみあったとき、先に仕掛ける側はほとんど負けるという。「待てない」ことが敗因になってしまうのである。巖流島の決闘で有名な宮本武蔵と佐々木小次郎の闘いなどいい例だ。

『4 0 歳から伸びる人 4 0 歳で止まる人』(川北義則 著 PHP 文庫)

東龍門流 秋の模試フル活用法

模試は満点めざして最低 3 回は解く！

模試は復習してこそ意味がある、とはよく言われることですが、まず、「最低 3 回解く」というのが鉄則です。1 回目は、模試本番。今の自分の力を出し切るつもりで、本気でぶつかっていきましょう。受けたその日にやるべきことは 2 つ。1 つは、受けた時のリアルな感覚・感想を書き残しておくこと。私の場合は、悔しいときはものすごく大きな文字でノートに思いを綴っていました。前ページでも述べましたが、このリアルな感覚は復習時に不可欠です。もう 1 つは、復習。とはいえ、模試で疲れた頭ですべてを復習するのは現実的ではありません。私の場合は、解法が気になった問題、解けずに悔しかった問題を各科目 1、2 問ピックアップして解き直し、解説を読んで確認していました。

2 回目に解くのは、模試の結果が返却されたときです。結果を見る前に、もう一度解いてみるのです。このときは、時間は気にせず解きます。解いたら、受験当日に書き残したものを見返してみましょう。例えば、「時間があったら解けたのに」と感じていた問題は、時間があれば本当に解けたのでしょうか。そうやって、受験時の感覚を思い出しながら解き直していきます。その後、解答・解説を読んで理解した後に、もう一度解きます。これが 3 回目です。果たして解けるのか。往々にして、理解したつもりになっているものです。焦るとつい前に進みたくなるものですが、模試は満点が取れるようになるまで徹底的に復習しましょう。

あと何点あればいいか、具体的な数字を出す

次は、模試の結果の捉え方です。つい点数や判定に一喜一憂しがちですが、そもそも模試を受ける意義の一つは、自分ができていない部分を見つけることにあります。極論を言えば、「0 点＝できていないところがたくさん見つかって万歳！」「1 0 0 点＝何も見つからず受けた意味がなかった・・・」ということなのです。どこができていなかったのか、そして、どうすればその穴を埋められるのかを、模試の結果から探っていきましょう。

判定については、「あと何点あれば、1 ランク上の判定だったのか」に注目しましょう。あと 3 0 点など具体的な数字を出すことで、どこで 3 0 点を稼げばいいのかという戦略を立てられます。伸びが期待できない分野を 3 0 点伸ばすのは非現実的ですが、得意 3 科目の小さなミスを減らして 1 0 点ずつ伸ばすのであれば、現実的で効率も良いですね。模試は、自分を知るチャンス。自分を知るのは怖いものですが、勇気を出して結果と向き合ったヤツが、最後に勝つのです。

まとめ

模試本番は自分の力を出し切るつもりで本気でぶつかる
受けた日のうちにリアルな感覚・感想を書き残しておく
解法が気になる問題は、受けた日のうちに復習する
模試の返却時に、結果を見る前にもう一度解く
解答・解説を読んで理解した後に、もう一度解き直す
あと何点あれば 1 ランク上の判定だったか、に注目する
不足点分をどこで稼ぐか、学習戦略を練る

裏面に続きます